

自己紹介



島づくりディレクター
服部 帰蝶
(はっとり きちよう)

東京都出身。大学卒業後、都内のIT企業、信用調査会社にて各業務に従事。

母親が鶴岡市出身であり、定期的に鶴岡の祖父母の家に来ていたことで山形の魅力に気付き、山形県の活性化の一助として貢献できないかと考え、飛島に転居。現在に至る。

令和7年4月1日、山形県酒田市飛島へ着任しました、島づくりディレクターの服部 帰蝶と申します。

不定期にはなりますが、今後「THE TOBISHIMA TIMES」にて、実施した活動を発信していきます。どのような活動を行っているのか、どうぞ一読いただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

Q 島づくりディレクターって何？

シンプルに言えば、飛島の活性化を目指す仕事です。移住者という外部視点から飛島の魅力を発見し、地域資源を有効活用した新規事業の立案やイベントの運営、地域の魅力などの情報発信を行います。

現在は島内のお手伝い、地域行事への参加、島民の方々のお話を聞いたり教わったりするなど、多方面で助けていただきながら島の事を学んでいます。まだわからないことも多く、一つ一つ聞きながら手探りで進んでいる状態ですが、ありがたいことに接していただける方も少しずつ増えてきています。

また定期的に本土へ渡り、研修やイベントに参加するなど、島に活かせるよう外部から得られる学びや経験も大切にしています。

迎えた着任初日、緊張の任用式

自身を含めた二名の着任

令和7年4月1日、酒田市役所にて任用式が行われ、同時期に平田地区の地域おこし協力隊へ着任となった長谷川さんと共に、市長から任用通知書をいただきました。受け入れていただいた酒田市への感謝と同時に、翌日からの島での活動への期待と不安を感じた日でした。

しかしこの後定期船の欠航が続き、5日まで島に渡れない事態に…笑



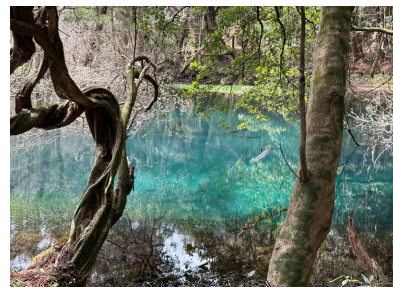
写真は山形新聞掲載記事より引用。
左・長谷川義人隊員、中央・矢口明子市長、右・服部帰蝶

地域を知ろう、ジオパーク研修

山形と秋田のジオサイトを巡る

4月10・11日の2日間、山形県（遊佐町・酒田市）と秋田県（由利本荘市・にかほ市）のジオパーク研修に参加しました。

山形側では植林前の庄内砂丘による悲惨な飛砂害、湧き水のみで満たされる神秘的な丸池様、牛渡川で行われる鮭の人工ふ化作業など、知れば知るほど人と自然の歴史を辿る旅だと感じました。先人達の苦勞によって現代人の安定した生活に至っている事実や、自然の価値を学ぶためにも、大人子供問わず是非ジオツアーに参加してみてください。



来島後の行事初参加、例大祭

お声がけいただき法木地区へ

4月15日、飛島にある3地区のうちの1地区である、法木地区の例大祭が行われました。当時は来島後間もないこともあり、行事の日程や参加条件など何もわからない状態だったのですが、ありがたいことにお誘いいただき見学させていただくことができました。

法木地区の例大祭では、チャップ、太鼓、笛の音色が鳴り響く中、男性二名が獅子舞、女性一名が天狗を舞っておられました。元々島内の舞人は男性のみだったようですが、法木地区では祭り継続のため女性が舞うようになったようです。

人口減少という何事も継続が難しい世の中ではありますが、島民の方々の賑やかな様子が見られたことで、今後もこの光景が続いてほしいと思うばかりでした。

